◎汽車の中

岩代服部貞子

いゝえと固辭するのも聞かずに席を讓つて呉れたのはもう腰の屈みかけた、お婆さんでした。ところへ又一人、片足の負傷兵がは入つてきました。が、依然、車中の人は見むきもしません。身動きもしません。

底本：「女子文壇」明治三十八(1905)年第拾壹號
テキスト入力：小林　徹
公開：令和三年三月六日
リンク：水野仙子ホームページ